



だより



R6.10.1 Vol.21

ちょっと覗いてきました！

5年生たちが参加した集団宿泊訓練。活動を少し覗きに行ってきました。キャンドルサービスとクライミングウォールの様子を見ました。

5人しかいないので、他校の子たちとの活動に、緊張していないかなあと思っていたのですが、どちらの活動も楽しそうに進めており、安心しました。

月曜日に登校してきた子供たちに何が楽しかったかと聞くと、それぞれ思い出に残った活動があったようでした。中には、「バイキング！」と答えた子も。確かに食はすべてのエネルギーの源ですからね。

この経験がこれからの生活に生きますように！



男の子との会話

「校長先生！問題です！僕の好きなDVDは何でしょう？」下校時、それは突然に何の脈絡もなく始まりました。大人との会話なら「いきなり？」で終わってしまいそうなのですが、ここからどう展開していくんだらう？とつい会話を続けたくなり…。「えっとね！マリオ！」「ぶー！」「クレヨンしんちゃん！」「ちがいます！」「ワンピース！」「そんなん僕持ってないよ！知らんの？」「『はい…残念ながら…（心の声）』『もう正解言っている？』『はい！お願いします！』『それはさなぴーです！』『……何それ？』『ゲームのなんたらかんたらで動画のなんたらかんたらで…。』『アニメとかじゃないの？』『うん！なんたらかんたらなんたらかんたら…あ！さようなら！』『え？…。』

『心の中がもやっとであふれてるんだけど…。どうしてくれるの？』

次の会話も楽しみです。（笑）

四方山話真穴 ver. 其の二十一（想像力）

今年の大河ドラマをご覧になっている方はいるでしょうか？「光る君へ」。源氏物語を書いた紫式部の生涯を描いた作品ですね。当時の宮中の生活ぶりも描かれています。小市民の私は貴族の生活などにはあまり興味はないのですが、歴史は好きなこともあり、何となく見続けています。いつかの回に紫式部が書いた物語が内裏で評判になるシーンがありました。また扇子に描かれている絵を見て幼き頃の記憶に思いを馳せるシーンもありました。「想像の世界を楽しむ、味わう」刺激的な映像や音に囲まれて育つ現代っ子、いえ、子供だけではなく、我々現代人が忘れていた感覚のような気がします。

千年以上前の生活と現代を比べることが、もしかするとナンセンスなのかもしれません。が、つい数十年前は、ようやく普及したラジオの音声から想像して楽しむ、もう少し時代を遡ると小学生たちは、童話を語ってくれる方の話芸を楽しむ。そんな時代でした。当時の子供や大人たちは、聞こえてくる音声から頭の中に広がる景色を楽しんでいたのではないのでしょうか。

今の八幡浜市教育長さんが「思いやりは想像力」こんなことをおっしゃっています。相手の立場や気持ちを考えるには想像するしかありません。自分ではない人の気持ちなんて絶対わからないんですから。どれだけ想像できるかが思いやりにつながるのだと思います。（私なりの解釈ですが…。）そして、その想像力を育てるのは自分の五感を通じた経験の積み重ねだと思っております。

いつかの便りに書いたかもしれませんが、学力を「認知能力」と「非認知能力」の二つに分ける考え方があります。認知能力とはテスト等で判断ができ、数値化できるもの、「非認知能力」とは一生懸命取り組む力であったり、やり通す意志であったり、思いやりの心であったり、数値化できないものをさします。どちらも大事な力ではありますが、いつの時代もどこにいても変わらず大切なものは非認知能力ではないかと私は思っています。